

エミール・ガレ展

— アール・ヌーボー 魅惑のガラス —

2006.9.30 Sat - 11.30 Thu



昆虫文付香水瓶

協力：飛騨高山美術館

開館時間 * 9時30分～17時30分(入館は17時まで) 年中無休(但し12月28日～1月1日を除く)

入館料 * 一般1,000円(4枚セット券3,000円)

大学生800円/高校生500円/中学生以下無料

同時開催企画 林康夫展—オブジェ陶の幻惑— 2006.10.1日～12.25日

「エミール・ガレ展」開催期間中は第5室「萬古の名陶」の展示はお休みさせていただきます。悪しからず御承ください。



paramitamuseum

財団法人岡田文化財団

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077

<http://www.paramitamuseum.com> E-mail=office@paramitamuseum.com

MAPCODE 566359095

19世紀末のヨーロッパ各都市を華やかに彩ったアール・ヌーボー。産業革命による量産化の結果、粗悪になった日用品に芸術性を取り戻そうとしたこの美術運動は、建築からポスターまで生活全般にわたるものでしたが、特にガラス工芸においては、フランスの小都市ナンシーが一大拠点としてその名をとどろかせました。

ナンシーのガラス職人だった父を継いで工芸作家になったガレは、19世紀後半に各地で開かれていた万国博覧会や装飾美術展に次々と出品し、1889年のパリ万博ではグランプリを受賞し、その名声を決定的にしました。

ガレの作品は日本をはじめとする東洋美術にヒントを得て、植物や昆虫などを装飾モチーフに取り入れた点で共通しています。実は19世紀後半のヨーロッパでは、開国によってもたらされた日本美術がもてはやされ、一大日本ブームが起きていたのです。

日本人がガレのガラス工芸に親しみを感じるのには、そこに日本人の自然観が色濃く反映されているからかもしれません。

今回はガレのガラス作品の中でも特に日本美術の影響が強い作品を中心に50点余りを展示し、華麗な世紀末ガラス工芸の世界をお楽しみいただきます。



アール・ヌーボー 魅惑のガラス

エミール・ガレ展



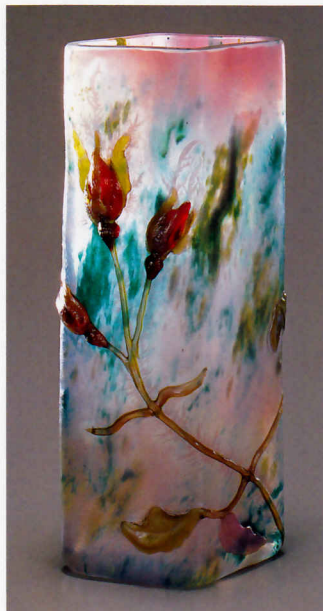
かたくり文花器



ペゴニア文花器



蜻蛉文付ランプ



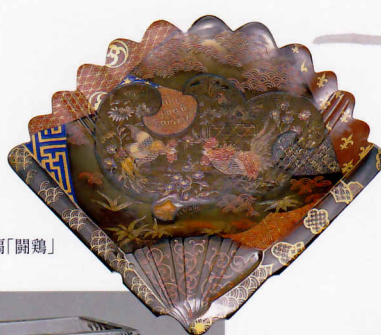
花器「フランスの薔薇」



木蓮文花瓶



蛙付蜻蛉文方形花器



装飾扇「開鷄」



蜻蛉文付水差

交通機関

【自動車】東名阪「四日市IC」より国道477号線(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km
無料駐車場(普通車100台、大型バス駐車場)

【電車】近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分「大羽根園駅」下車、西へ300m、477号線沿い北側 全館バリアフリー対応、常備車椅子4台

問い合わせ先: paramita museum

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077

http://www.paramitamuseum.com E-mail=office@paramitamuseum.com



paramitamuseum
財団法人岡田文化財団